

筑波大学附属病院外科：キャリア形成プログラム（修学生医師向け）

<特徴>

「伝統校」「名門校」の称号よりも、新しい、開かれた「先端校」「先進校」の理念を選んだ筑波大学の「Imagine the future」のスローガンの元、グローバル社会に開かれた環境で行われる「未来へのフロントランナー」としての外科医の養成を目指します。
年間12000件を超える豊富な症例数を誇る病院群を形成し、規定数をはるかに超える多くの症例の経験を提供します。
「研修医は黙ってみている」といった以前の権威主義的な外科教育は微塵もなく、専攻医を中心に据えた外科臨床を行っています。

<研修例> ※あくまで例であって、個別に相談して決定します

#外科専門医資格を取得するまでの3年(または4年)の内、1年6ヶ月は基幹病院である筑波大学附属病院外科で研修を行う。
#専門以外の規定症例クレジットを担保する為に、他科のローテーションを6ヶ月まで認める。
#大学院進学は、外科専門医取得後早期と、サブスペシャリティー外科専門医取得後の2つのタイミングで選択する事が出来る。
早期に大学院に進学した場合、その後サブスペシャリティー外科専門医資格を取得する臨床研修を行う。

(1)地域枠(義務年限9年間)

基幹病院 Ba
A群病院群(医師不足地域内病院)
B群病院群(医師不足地域外病院)
C群病院群(県外・海外病院)

茨城県内(A、B 筑波大)で9年の義務 そのうち4.5年は医師不足地域(A群)で研修、県外または海外での研修期間 大学院進学時は猶予期間となる

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	
ケース1-1	初期研修(医師不足地域内2年)	Ba	A(6カ月)	A	A	Ba	BまたはBa	BまたはBa	BまたはBa	医師不足地域での研修を早期に終える場合
						(外科専門医取得)	(Subspecialty専門医取得)	(義務年限修了)		
ケース1-2	初期研修(医師不足地域内2年)	A(6カ月)	Ba	Ba	C	A	BまたはBa	A	BまたはBa	5-6年目に猶予期間を活用し県外での研修を行う場合
					(外科専門医取得)	(Subspecialty専門医取得)	(義務年限修了)			
					認定専門研修(猶予)					
ケース2-1	初期研修(医師不足地域内1年・医師不足地域外1年)	Ba	A(6カ月)	Ba	A	大学院	A	BまたはBa	A	外科専門医取得後大学院(4年)に進学する場合
					(外科専門医取得)	(Subspecialty専門医取得)	(義務年限修了)			
					認定専門研修(猶予)					
ケース2-2	初期研修(医師不足地域内1年・医師不足地域外1年)	A(6カ月)	Ba	A	Ba	A	BまたはBa	A	BまたはBa	医師不足地域と医師不足地域外での研修を交互に行う場合
					(外科専門医取得)	(Subspecialty専門医取得)	(義務年限修了)			
ケース3-1	初期研修(医師不足地域外2年)	Ba	A(6カ月)	Ba	A	A	A	BまたはBa	A	基幹施設での研修の後 医師不足地域での研修を行う場合
					(外科専門医取得)	(Subspecialty専門医取得)	(義務年限修了)			
ケース3-2	初期研修(医師不足地域外2年)	A(6カ月)	Ba	Ba	C	A	A	A	BまたはBa	A
					(外科専門医取得)	bspecialty専門医取得	(義務年限修了)			

*県外または海外での研修の場合 3年を目安に猶予期間とできる

*大学院進学の場合はその期間を猶予期間とできる

(2) 一般修学(義務年限6年間)

基幹病院 Ba
A群病院群(医師不足地域内病院)
B群病院群(医師不足地域外病院)
C群病院群(県外・海外病院)

茨城県内医師不足地域(A群)での研修 6年の義務
 県内医師不足地域外(B群)での研修1年は義務機関に参入可(1年以内)
 県外または海外での研修期間 大学院進学時は猶予期間
 最終年は6か月で義務年限終了とできる

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目	12年目
ケース1-1	初期研修(医師不足地域内2年)	Ba	A(6カ月)	Ba	A	A	A					
				(外科専門医取得)		(Subspecialty専門医取得)						(義務年限終了)
ケース1-2	初期研修(医師不足地域内2年)	A(6カ月)	Ba	Ba	C	A	A	A				
				(外科専門医取得)	認定専門研修(猶予)	(Subspecialty専門医取得)						
ケース2-1	初期研修(医師不足地域内1年・ 医師不足地域外1年)	Ba	A(6カ月)	Ba	A	大学院	A	A	A			
				(外科専門医取得)	認定専門研修(猶予)		(Subspecialty専門医取得)					(義務年限終了)
ケース2-2	初期研修(医師不足地域内1年・ 医師不足地域外1年)	A(6カ月)	Ba	A	Ba	A	BまたはBa	A	BまたはBa	A		
					(外科専門医取得)		(Subspecialty専門医取得)					(義務年限終了)
ケース3-1	初期研修(医師不足地域外2年)	Ba	A(6カ月)	Ba	A	A	A	A	A			
					(外科専門医取得)		(Subspecialty専門医取得)					(義務年限終了)
ケース3-2	初期研修(医師不足地域外2年)	A(6カ月)	Ba	Ba	C	A	A	A	BまたはBa	A		
					(外科専門医取得)	(Subspecialty専門医取得)						(義務年限終了)

筑波大での研修1年分を義務期間に算入

5年目に猶予期間を活用し県外での研修を行う場合

外科専門医取得後大学院(4年)に進学する場合

医師不足地域と医師不足地域外での研修を交互に行う場合

基幹施設での研修の後 医師不足地域での研修を行う場合

基幹施設での研修後県外等で研修を1年行う場合

- *県外または海外での研修の場合 1年を目安に猶予期間とできる
- *大学院進学の場合はその期間を猶予期間とできる
- *県内医師不足地域外での研修は1年を義務期間に算入可

【消化器外科専門研修研修病院群】

基幹病院 Ba	筑波大学附属病院
A群病院群(医師不足地域内病院)	日製ひたちなか総合病院、日製日立総合病院、水戸協同病院、茨城県立中央病院、国立水戸医療センター、水戸済生会総合病院、水戸赤十字病院、水戸中央病院、友愛記念病院、西南医療センター病院、高萩協同病院、総合守谷第一病院、つくばセントラル病院、龍ヶ崎済生会病院など
B群病院群(医師不足地域外病院)	国立霞ヶ浦医療センター、筑波学園病院、筑波メディカルセンター、筑波記念病院など
C群病院群(県外・海外病院)	国立がん研究センター東病院、聖隷佐倉市民病院、埼玉県立がんセンターなど

【心臓血管外科専門研修研修病院群】

基幹病院 Ba	筑波大学附属病院
A群病院群(医師不足地域内病院)	日製日立総合病院、茨城県立中央病院、国立水戸医療センター、茨城県立こども病院、水戸済生会総合病院など
B群病院群(医師不足地域外病院)	筑波メディカルセンターなど
C群病院群(県外・海外病院)	東京都立小児総合医療センター、心臓病センター榊原病院、長野県立こども病院、関西医科大学、杏林大学など

【呼吸器外科専門研修研修病院群】

基幹病院 Ba	筑波大学附属病院
A群病院群(医師不足地域内病院)	日製日立総合病院、茨城東病院、日製ひたちなか総合病院、茨城県立中央病院、水戸協同病院、国立水戸医療センター、水戸済生会総合病院、西南医療センター病院など
B群病院群(医師不足地域外病院)	土浦協同病院、筑波メディカルセンター、筑波記念病院など
C群病院群(県外・海外病院)	自治医科大学病院・がん研有明病院など

【小児外科専門研修研修病院群】

基幹病院 Ba	筑波大学附属病院
A群病院群(医師不足地域内病院)	茨城県立こども病院、茨城県立中央病院、JAとりで総合医療センターなど
B群病院群(医師不足地域外病院)	土浦協同病院など
C群病院群(県外・海外病院)	埼玉県立小児医療センター、竹田総合病院など

【乳腺甲状腺内分泌外科専門研修研修病院群】

基幹病院 Ba	筑波大学附属病院
A群病院群(医師不足地域内病院)	日製ひたちなか総合病院、日製日立総合病院、水戸協同病院、茨城県立中央病院、国立水戸医療センター、水戸済生会総合病院、水戸赤十字病院、友愛記念病院、西南医療センター病院、つくばセントラル病院など
B群病院群(医師不足地域外病院)	筑波学園病院、筑波メディカルセンターなど
C群病院群(県外・海外病院)	埼玉県立小児医療センター、竹田総合病院など